

16

矛盾

単元の確認

作者・作品の確認

● 出典名：「韓非子」

● 作者：韓非（中国の思想家）と、その一派

● 書かれた時代：中国の戦国時代末期（前三世紀）

● 話の内容：分かりやすい説話を用いて、教訓を与える。

場面

楚の国の男が、盾と矛を売っている。

盾の話

男は盾を自慢する。

「私の盾の堅いことと云ったら、どんなものでも突き通せるものはない。」

矛の話

男は矛も自慢する。

「私の矛の鋭いことと云ったら、どんなものでも突き通さないものはない。」

「ある人」の質問

「あなたの矛で、あなたの盾を突いたら、どうであるか。」

男の反応

答えることができなかった。

「矛盾」は物事のつじつまが合わないという意味の言葉（「故事成語」）が生まれた。

作者・作品の確認問題

1 「矛盾」の話に出てくる男について述べた、次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

□の国の人で、□と□を売っていた。

学習のポイント

・ 訓読の決まりをふまえて読み、漢文特有のリズムを理解する。
・ 故事成語について知る。

2 男は、自分の「盾」と「矛」について、どんなことを自慢しているのですか。□にそれぞれ漢字一字を書きなさい。

盾……
く、突き通せるものはないこと。

矛……
く、どんなものでも突き通さないものはないこと。

3 「矛盾」という話の出典名を漢字三字で書きなさい。

□□□

知識の確認

1 漢文の読み方

(1) 訓読文…漢文を読むために送り仮名や句読点、返り点を付けた文。
(2) 返り点…漢文を読む順番を表す記号で、漢字の左下に付けられる。

・ レ点…下の一字から、すぐ上の一字に返って読むことを示す記号。

例 食_レ肉（「肉_↓食」の順に読む。）

2 1

・ 一・二点…二字以上、下から返って読むことを示す記号。

例 待_二天_一命（「天_↓命_↓待」の順に読む。）

3 1 2

(3) 送り仮名…漢字の右下に付けられた片仮名。

送り仮名や助詞・助動詞など。

例 譽_レ之_{ハク}曰（「メテ・ヲ・ハク」が送り仮名。）

2 書き下し文の書き方

書き下し文とは、訓読文を読む順番に従って漢字仮名交じりで書き改めた文。

(1) 送り仮名は、平仮名に改めて、歴史的仮名遣いそのまま書く。

例 誉^{メテ}レ^ラ之^ヲ 曰^{ハク} ↓之を誉めて曰はく、

(2) 助詞・助動詞に当たる漢字は平仮名に改めて書く。

例 「吾^{ワガ} 盾^ノ 之^ノ 堅^{カク}、莫^{トモ} 能^{ヤク} 陷^{トハスモ}」也。

↓「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。

(助詞「之」と助動詞「也」は、平仮名で書く。)

3 故事成語

(1) 「故事成語」とは

中国に昔から伝えられている話(故事)や書物の中の話から生まれた短い言葉で、今日でもしばしば用いられるもの。

(2) 日常的に使われる「故事成語」の例

① 「推敲」

意味 よりよい文章にするために、何度も表現を練ること。

使い方 書き上げた下書きを読み直して、推敲する。

② 「五十歩百歩」

意味 わずかの違いはあるが、どちらも似たようなものであること。

使い方 どのアイデアも五十歩百歩だ。

③ 「背水の陣」

意味 決死の覚悟で、事にあたること。

使い方 この試合は背水の陣で臨む。

④ 「蛇足」

意味 余分なもの。

使い方 蛇足ながら、説明を一つ加えておきます。

知識の確認問題

1 次の漢文で、いちばん初めに読む漢字を□に書きなさい。

待^ツ天^命

□

2 1の漢文を全て平仮名で書き下しなさい。

□

3 中国の故事から生まれた熟語やひとまとまりの言葉を、何といますか。漢字四字で書きなさい。

□

4 よりよい文章にするために何度も表現を練ることを何といますか。漢字二字で書きなさい。

□

漢字の確認

漢字の読み書き — 線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

教科書 p. 144 ~ 147

① 矛盾を感じる。

② 常に成長する。

③ 英語に由来する。

④ 生活と切り離す。

⑤ 盾が堅い。

⑥ 格調が高い。

⑦ 大和言葉。

⑧ 優れた言葉。

⑨ カンピシからの引用。

⑩ 言葉を取りこむ。

⑪ 背水の陣。

⑫ 自分をハゲます。

⑬ やりてつく。

⑭ サラに自慢する。

⑮ 矛がスルドい。

⑯ 引きしまったリズム。



定期テスト 得点 UP 問題

得点

100

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(計74点)

楚人^{そびと}に盾^{たて}と矛^ことを鬪^{ひき}ぐ者^{もの}有り。之^{これ}を誉^ほめて曰^いはく、^①「吾^わが盾^{たて}の堅^{かた}きこと、能^よく陷^おすもの莫^なきなり。」と。又^{また}、其^その矛^こを誉^ほめて曰^いはく、^②「吾^わが矛^この利^ときこと、物^{もの}に於^おいて陷^おさざる無^なきなり。」と。或^{ある}ひと曰^いはく、^③「子の矛^こを以^もつて、子の盾^こを陷^おさば、何^{いかん}如^{ごと}。」と。其^{その}の人^{ひと}心^{こころ}ふること能^{あた}はざるなり。

〈矛盾^{むじたん}〉より

(1) 線a・bの漢字に読み仮名を書きなさい。(2点×2)

a b

(2) 線①「盾と矛とを鬪ぐ者」について、次の各問いに答えなさい。

1 「鬪ぐ」を現代語に直しなさい。(3点)

2 「盾と矛とを鬪ぐ者」の言葉ではないものを、文章中の④～⑥から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

3 「盾と矛とを鬪ぐ者」以外の登場人物を表す言葉を、文章中から抜き出しなさい。(3点)

(3) 線②「之を誉めて曰はく」を、「之」の指示内容を明らかにして現代語に直しなさい。(5点)

(4) 線③「吾が盾の堅きこと、能く陷すもの莫きなり。」は、「私の盾の堅いこと(といったら)、突き通せるものはないのだ。」という意味ですが、これと同じ意味になるように、二十五字以内の別の表現に書き直しなさい。(10点)

(5) 「盾と矛とを鬪ぐ者」が「矛」をほめている一文を、文章中から抜き出しなさい。(5点)

(6) 線④「利き」とありますが、ここでの意味を含む熟語を次から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア 利害 イ 銳利 ウ 勝利 エ 利口

(7) 線⑤「子の矛を以つて、子の盾を陷さば、何如。」について、次の各問いに答えなさい。

1 現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。(4点)

2 意味を説明した次の文の□に当てはまる言葉を、それぞれ文章中から抜き出しなさい。(4点×2)

・あなたの□で、あなたの□を突いたら、どうなるか。

(8) — 線⑥「其の人応ふること能はざるなり。」は、「その人は答えることができなかつた。」という意味ですが、「答えること」ができなかつたのはなぜですか。「つじつま」という言葉を使って、三十字以内で書きなさい。(10点)

(9) この話からできた「故事成語」を1漢字二字で書きなさい。また、2その意味を□□に書きなさい。(1||3点、2||5点)

1 故事成語

--	--

2 意味

--	--	--	--	--	--	--	--

(10) 次の書き下し文に合うように、後の訓読文に返り点を一つ補いなさい。(4点×2)

1 之を誉めて曰はく

(4点×2)

誉^{メテ}之^ヲ曰^{ハク}

2 能く陥すもの莫きなり

莫^キ能^ク陥^スもの莫^シ也

(1) 2 次の各問いに答えなさい。
次の故事成語の意味を書きなさい。

1 背水の陣

(計26点)
(4点×2)

--	--	--	--	--	--	--	--

2 蛇足^{だそく}

--	--	--	--	--	--	--	--

(2) 次の故事成語の意味を後から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。(3点×2)

1 温故知新

ア 新しいことと古いことの違いを比べること。

イ 新しいことに古いことを組み入れていくこと。

ウ 古いことを研究し、そこから新たに発見すること。

エ 古いことは忘れ、新しいものを極めようとすること。

2 杞憂^{きゆう}

ア 無用の心配のこと。イ 突拍子もない話のこと。

ウ 沈んだ気分のこと。エ 夢のような幸福のこと。

(3) 次の故事成語と同じ意味を表すものを後から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。(3点×2)

1 五里霧中^{ごりむちゆう}

ア 画竜点睛^{かりまてんせい}

イ 暗中摸索^{あんちゆうもくさく}

ウ 呉越同舟^{ごえつどうしゆう}

エ 四面楚歌^{しめんそか}

2 五十歩百歩

ア 蜚雪の功^{ひせつのかう}

イ 漁夫の利^{ぎよふのり}

ウ 完璧^{かんぺき}

エ 大同小異

(4) 次の絵が表している故事成語は何ですか。それぞれ四字で書きなさい。(3点×2)

1



2



1

--	--

2

--	--

解説

1

(2) 「鬻ぐ」は現代語で「売る」。「盾と矛とを鬻ぐ者」の言葉は、1、3行目に二か所ある「誉めて曰はく」の直後の部分で、それぞれ盾と矛を自慢しているものである。三つ目の会話文の直前に「或ひと曰はく」とあるので、ここだけが違ふ人物の言葉である。「或ひと」は、「盾と矛とを鬻ぐ者」が盾と矛を自慢する言葉を聞き、質問をしたのである。

(3) 「誉めて」は、「自慢して」などとしてもよい。

(4) 盾の堅さを自慢している言葉である。「(どんなものでも)突き通せるものはない」とは、「(どんなものでも)突き通せない」と同じ意味である。

(5) 「其の矛を誉めて曰はく」(2行目)に注目する。その直後からが矛を自慢する言葉になっている。

(6) 「利きこと」とは「鋭いこと」という意味なので、この意味で「利」が使われている熟語は、イの「鋭利」。「鋭」も「利」も鋭くよく切れることを表す。

(7) 1 歴史的仮名遣いの「つ」は「つ」に直すので「以つて」は「もつて」となり、語頭以外のハ行は「わ・い・う・え・お」に直すので、「陥さば」は「とおさば」となる。

2 (2)で見たとように、「盾と矛とを鬻ぐ者」の盾と矛の自慢話を受けて、「或ひと」が、何でも突き通せる鋭い矛で、何も突き通せないほど堅い盾を突いたらどうなるのかと尋ねている。「何如」は、「どうなるか」という意味である。

(8) 自分の持っている盾と矛についての自慢、何も突き通せないほど堅い盾と、何でも突き通せる鋭い矛が両立しないこと、つまり、つじつまが合わないことを「或ひと」に指摘されたからである。

【解説】質問のつじつまが合っていないで困ってしまったから。(25字)

(この書き方では、「或ひと」が筋の通らない質問をしたかのように受け取れる

ので、「その人」が答えることができな理由が分かるようにする。)

(9) 「矛」と「盾」、「矛盾」と書いて「むじゆん」と読み、物事のつじつまが合わないことをいう。

(10) 1 書き下し文での漢字の順番は「之↓誉↓曰」である。訓読文の漢字の順番は「誉↓之↓曰」である。この訓読文を書き下し文のとおり読むには、「誉」と「之」を逆に読むとよい。したがって、「誉」にレ点を付ける。

2 書き下し文での漢字の順番は、「能↓陷↓莫↓也」である。訓読文の漢字の順番は、「莫↓能↓陷↓也」である。この訓読文を書き下し文のとおり読むには、「能陷」の二字を読んだ後に「莫」を読む。したがって、一・二点を付ければよい。「陷」に一点が付いているので、「莫」に二点を付ける。

2

(2) 1 「温故知新」は、古いことを学んだうえで、新しい知識を発見することである。「論語」の中で、孔子が師の資格として述べた言葉である。

2 「杞憂」は、無用の心配のことである。昔の中国にあった杞の国の人、天地が崩れたらどうしようと心配したことからできた言葉である。

(3) 1 「五里霧中」は、手さぐりで物事をするのであり、「暗中摸索」が同じ意味になる。「画竜点睛」は、物事を完成させる最後の仕上げのことで、「画竜点睛を欠く」などと用いられる。「呉越同舟」は仲の悪い者どうしが一か所に集まること、「四面楚歌」は味方がおらず孤立することである。

2 「五十歩百歩」は、大差がないことであり、「大同小異」が同じ意味になる。「螢雪の功」は、苦勞して学問に励むこと、「漁夫の利」は争っている当事者ではない者が利益を得ること、「完璧」は欠点がないことである。

(4) 1 鳥と貝が争っているところに、漁師がどちらも捕まえてやろうとして網を投げている絵である。「二者が争っている間に、第三者が利益を手に入れる」という意味の「漁夫の利」であることを捉える。

2 人が猿に向かって左手は「三」、右手は「四」を示している。ここから、「餌のどちらの実を朝三つ、夕方四つやろう」という言葉に猿が怒ったので、「それなら、朝四つ、夕方三つやろう」と言ったら喜んだという故事からできた「朝三暮四」を表したイラストであることを捉える。「目先の差にこだわり、結果的には同じであることに気づかない」という意味。